

第 52 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	林亮輔ゼミ	チーム名	美味しいヤミ感謝感謝
タイトル	SNS での誹謗中傷による被害を減らすためには		
テーマ群	a)理論・情報 g)その他		
メンバー	加藤岳、石井響、多田圭裕、佐藤春香、金光優奈		
研究計画内容	<p>【研究背景・目的】 近年、SNS は多くの人に利用されており、手軽に誰でも発信ができる良いツールである。しかし、誹謗中傷のような攻撃的な投稿をされる場合がある。その原因はいくつか存在するが、原因の多くはネットリテラシー教育の低さから生じるものである。そのため、根本的な解決をするためには、ネットリテラシー教育の低さを改善する必要がある。中学校の学習指導要領ではネットリテラシーについての教育が決められている。しかし、誹謗中傷による被害は減っていないため、私たちはネットリテラシー教育の現状に問題があるのではないかと考え、本研究に至った。</p> <p>【研究対象・方法】 モバイル社会研究所によると、スマートフォンを持ち始める年齢は 12 歳が最も多いため、本研究では中学生を対象に研究する。内容としては、SNS での誹謗中傷による被害を減らすために「ネットリテラシー教育」という観点から考え、次の 3 点を明らかにする。(1)ネットリテラシー教育の現状(2)なぜ誹謗中傷をしてしまうのか(3)先述の 2 点を踏まえ、どのような教育を行うべきなのかの 3 点を明らかにする。上記の 3 点を明らかにするために、以下のステップで研究を進める。</p> <p>Step1. 「なぜ誹謗中傷をしてしまうのか」をテーマにロジックツリーを作成し、原因を細分化する。→誹謗中傷の発生条件を明確にする。</p> <p>Step2. 中学生を対象に、ネットリテラシーに対する意欲関心や教育の内容などを問うアンケートを実施する。→ネットリテラシー教育の現状を把握することができる。</p> <p>Step3. Step2 のアンケート調査結果を踏まえ、作成したロジックツリーより被害を減らすうえで重要だと考えられる原因を選択し、その詳細を明らかにする。</p> <p>Step4. Step1,2,3 よりどのような教育を行うべきなのかを考える。</p> <p>【独自性・独創性】 現在の中学生を対象にアンケート調査をすることで、リアルな意見を教育に反映することができる。</p> <p>【社会的意義】 上記のステップを踏むことで、論理的にどのような教育を行うべきかを考えることができるため、日本のネットリテラシー教育が充実することが期待される。従って、誹謗中傷が減少し、テーマである「SNS での誹謗中傷による被害を減らす」効果が期待されるとともに、SNS 時代である今日、SNS との生き方を考えることができる副次的な効果も期待される。</p> <p>【参考文献】 ・文部科学省「情報モラル教育」（第 5 章情報モラル教育、https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/056/shiryo/attach/1249674.htm、2022 年 10 月 22 日閲覧） ・モバイル社会研究所「スマホの持ち始めは年々低年齢化・10 歳からスマホデビュー」（モバイル社会研究所、https://www.moba-ken.jp/project/children/kodomo20220330.html、2022 年 10 月 21 日閲覧）</p>		